北陸中日新聞　2023年（令和5年）7月1日（土曜日）

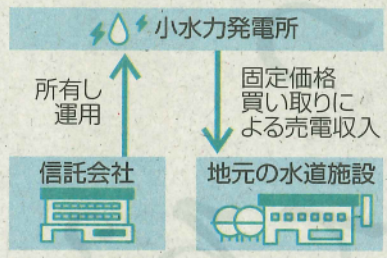
ＦＩＴと発電事業信託 組み合わせ

水道守る 小水力発電

深松組が構想 過疎進む朝日・笹川に完成

富山県朝日町笹川地区を発祥の地とする土木建築業「深松組」（仙台市）が同地区の水道を守るために構想、建設した笹川小水力発電所が完成した。再生可能エネルギー固定価格買い取り制度（ＦＩＴ）を利用した売電で水道事業費、発電設備建設費を捻出する。発電事業を信託し、事業を安定化する。ＦＩＴと信託を組み合わせた小水力発電は全国初。（松本芳孝）

事業の仕組み



町によると、笹川地区は六月一日現在、世帯数百四、人口二百二十八人。高齢化率は55・7％で過疎化が進んでいる。地区の簡易水道は一般社団法人笹川水道組合が担っているが、老朽化した設備の整備費約三億円のめどが立たず、地区存続が危ぶまれていた。

深松組は再生可能エネルギーで発電した電気を電力会社が一定期間、国が定めた価格で買い取るＦＩＴと発電事業に必要な土地、金銭などが社から切り離されて守られる倒産隔離機能がある信託方式を組み合わせ、持続的な発電と水道維持を狙った。再生可能エネルギー事業に実績があるすみれ地域信託（岐阜県高山市）と連携し、水道設備は二一年五月、発電設備は同六月に着工した。総事業費は七億八千五百万円。

発電機の起動ボタンを押す深松努社長㊧と井上正社長＝30日、富山県朝日町笹川で

笹川小水力発電所の認定出力は百九十九キロワット。一般家庭二百八十四世帯の電力をまかなえ、年間七百九十四トンの二酸化炭素（CO_2）排出削減効果がある。四月から試験運転を開始。七月一日からＦＩＴを使った北陸電力への売電を始める。水道設備は二五年三月末までに完成する。

三十日にあった完成式で、深松組の深松努社長とすみれ地域信託の井上正社長が発電機の起動ボタンを押して完成を祝った。深松社長は「今回のスキームが全国に波及し、地方の人々の生活を支える助けになってほしい」と語った。井上社長は「地元の人たちが安心して水道を使えるよう責任を持って役割を果たしたい」と話した。

2023年（令和5年）7月1日　土曜日　北日本新聞

県東部

小水力発電で地域貢献

朝日 笹川地区

朝日町笹川地区で建設が進められてきた笹川小水力発電所の完成式が30日、現地で行われ、関係者が祝った。

創業者が出身 深松組が建設

発電所は同地区とゆかりが深い深松組（仙台市、深松努社長）が建設。固定価格買取制度（FIT）と信託方式を組み合わせた日本初の取り組みで、売電収入を同地区の簡易水道更新費に充てる。

（高野由邦）

テープカットで小水力発電所の完成を祝う関係者。売電収入で地区の簡易水道設備を更新する

売電収入 水道更新費に

笹川地区は朝日町の山間部に広がり、約100世帯が暮らしている。同地区の簡易水道設備は老朽化しているものの、過疎化が進んでおり、地区だけで設備の更新費3億円を捻出するのは困難だった。そこで、創業者が同地区出身の深松組が小水力発電所の建設を申し出た。信託会社が発電所を所有し管理運用することで、持続可能な事業運営を目指す。

FITを活用して北陸電力に売電し、地域貢献の一環で簡易水道設備の更新費に充てる。簡易水道設備は2021年に着工し、24年度中の完成を予定している。更新費の一部は町が助成する。

小水力発電所は最大出力199キロワットで、総事業費は7億8500万円。地区内を流れる笹川から取水して発電する。年間発電量は一般家庭284世帯分の使用量に当たる。

完成式で、創業者の孫に当たる深松社長が「難工事だったが、会社のルーツがある地区で仕事ができた」とあいさつ。笹原靖直町長ら関係者がテープカットした。

富山新聞　2023年（令和5年）7月1日（土曜日）

信託式の小水力発電

国内初、朝日・笹川に完成

売電収入で水道維持

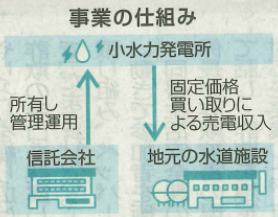
朝日町笹川地区で創業した総合建設業、深松組（仙台市）などが同地区で建設を進めていた小水力発電所竣工式は30日行われ、約50人が国内初の信託方式による整備完了を祝った。売電収益を地区簡易水道改良、保全に充てる仕組みで、関係者は全国のモデルとなるよう期待を込めた。

深松組、創業の地で整備

山間部にある約100世帯の笹川地区は、老朽化した水道施設の修繕が課題になっていた。工事費に約3億円を要するため、同地区出身の深松幸太郎氏を創業者とする深松組が建設に乗りだした。

全国初の枠組みで完成した小水力発電所完成を祝う関係者
＝朝日町笹川

信託方式を採用し、すみれ地域信託（岐阜県高山市）が施主となり、深松組が施工した。信託会社が発電所を所有し管理運用することで、1企業の場合の経営行き詰まりなどのリスクを避け、持続可能な運営が可能になる。



式では、同信託の井上正社長が「初めてこの地を訪れてから6年、難工事を乗り越えての完成で感慨深い。地域の財産として未来永劫、責任を持って管理する」とあいさつ。創業者の孫に当たる深松努社長は「皆さんとともに素晴らしいふるさとを守っていく。全国の各地方が笹川同様の課題を抱えている。新しい日本の地域をつくる好事例として広がっていけばいい」と期待を込めた。

笹原靖直町長、上田英俊衆院議員、野上浩太郎、堂故茂の両参院議員、鹿熊正一県議らが祝辞を述べ、テープカットした。

総事業費は7億8500万円。地区内を流れる笹川から取水して発電、発電量は1時間当たり199キロワット、年間発電量は一般家庭約284世帯分の年間使用量に相当する。再生可能エネルギー固定買取制度（FIT）を活用し、北陸電力に売電する。水道施設の改修完了は来年度を予定する。